

「外来移転お疲れ様でした！」

診療支援部歯科衛生部門 塚田 しげみ



みなさんこんにちは。診療支援部歯科衛生部門の塚田と申します。平成22年4月に採用され病棟2階の摂食嚥下リハビリテーション室に配属になり外来移転とともに新外来棟4階の配属になりました。また、平成24年度より部門長の任を受けておりますが外来配属が初めてであり看護師長さんはじめ看護師スタッフの皆さんからご指導・アドバイスを受けながらまた先生方や同僚からの意見をいただきながらよりよい歯科医療を提供できる環境作りや部門長としての職務を勉強しているところです。

外来移転におかれましては、みなさまお疲れ様でした。3ヶ月程が経過いたしますが、やっと落ち着いてきたという頃でしょうか。歯科衛生士の業務が外来環境を整えることに重きをおいていますが今後はもっと歯科衛生士業務をおこなっていくよう改善を図らなければならないと感じています。

現在歯科衛生部門は私を含め22名がおります。1・2ブロックに5名、3ブロックに7名、4ブロックに4名、5ブロックに4名、摂食嚥下リハビリテーション室に1名、配属なしのフリーが1名という配属で診療科に関係なくブロック内で外来環境を整え診療を円滑に行うために歯科医師のサポート役として効率的な診療補助を行うことを心がけるようにしています。また、ブロックを超

えてお互いにサポートしあえるような体制も本格的に導入できるようになり、スタッフ間のコミュニケーション能力が試される環境となっております。

歯科衛生部門は組織としてはまだまだ脆弱です。職務経験や技量、得意とするところに違いのある集団ですが、一人ひとりの強みを見極め活かせるようにすることがこれからの部門長に必要とされることであると思っています。しかし、私自身が勉強中の身。22名が信頼し合い協力していく中で作りあげていく一助になればと思っています。

私事ですが、去年は思いがけず嬉しいことがありました。

一昨年の口腔生命福祉学専攻前期課程(社会人)の研究発表が今年の歯科衛生学会において学術発表奨励賞を受賞いたしました。研究に際しましてご指導くださいました摂食嚥下リハビリテーション室の先生方にこの場をお借りして感謝申し上げます。

今後も発表の続きを研究していきたいと考え後期課程に進むことにいたしました。去年は部門長の仕事も初めてであり研究が疎かになっておりましたが、新年早々気持ちを改め少しずつ取り組んでいこうと思っています。

これからも患者様のために周囲のみなさまの期待に添えるよう歯科衛生部門の一員として頑張っていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

歯科衛生士&大学院生として

歯科衛生士 摂食・嚥下リハビリテーション学分野
大学院生

山田 亜紀



歯科衛生士&摂食・嚥下リハビリテーション学分野・大学院生の山田亜紀といます。

病院の歯科衛生士として勤務して3年目となります。1年目は予防歯科、2

年目から特殊歯科に配属され、移転後の現在はブロック3の顎関節治療部とインプラント治療部で、引き続きメンテナンスを担当しております。

前職は、東京の歯科衛生士学校で13年間、教員をしていました。大学院1年目は、新潟へ引越しする予定はなく、夏休みと冬休みのそれぞれ1ヶ月間、新潟でホテル住まいをして、東京から通っていましたが、実際に関わる中で、本腰を入れて研究がしたいと思い、人生のナンバー3に入るだろう決断で、教員を退職して移住してきました。

東京から引越しのトラックを送り出し、意気揚々と新潟に到着した日は、3月末だということに地吹雪で、本当にここでやっていけるのか自信を失くしてしまいましたが、人は適応していくものようです。1年目の冬はグレーの空と寒さの毎日にうつ病になりそうで、頻繁に東京に帰っていました。それが2年目になると日本酒でごまかせるようになり、3年目の現在は、東京で久しぶりに会う友人に「登山にでも行くの」と言われて気づくほど、雪用ブーツを愛用しています。

新潟での日々を振り返ると、臨床においては、荒井先生をはじめ顎関節治療部の先生方のご協力のもと「顎関節症とドライマウスの関連」をテー

マに研究を行い、昨年9月の口腔内科学会で発表する機会をいただきました。また、星名先生をはじめインプラント治療部の先生方には、メンテナンスに必要な知識・技術をアドバイスいただくとともに、夕方以降のミーティングに混ぜていただき、日々有意義な勉強をさせていただいております。

大学院の研究は、うさぎを使った慢性実験を行い、実際の食物摂取時の咀嚼や嚥下、飲水を対象として、これらの運動時に開口反射がどのような変調を受けるかを検証してきました。毎日世話をしているうちに、うさぎと話せると思い始めた自分は大丈夫かと思うこともありましたが、Neuroscience Lettersに論文がアクセプトされ、修了が見えるところまで辿りつきました。指導教授の井上先生から言われた「学位はあくまでパスポート。取ってからが大事」という言葉を忘れずに、これからも研究を続けながら、いろいろなことに挑戦していきたいと思えます。

最後になりますが、大学院での研究指導をくださった、井上誠先生はじめ摂食・嚥下リハビリテーション学分野の先生方、ドライマウスの臨床研究で初歩的なことからご指導くださった伊藤加代子先生はじめチームドライマウスの先生方、老年歯科医学会の認定歯科衛生士申請にあたりご協力いただいた野村修一先生、そして新潟の冬を乗り切るために支えてくれた大切な友達、この場をお借りして御礼申し上げます。本当にありがとうございました。今後とも、ご指導いただきますよう、よろしくお願いいたします。